

# コレクション展示 近現代の彫刻 I

平成31年4月20日(土)～6月23日(日) 展示室 1

この展示室では、当館が収蔵する彫刻作品を紹介しています。

芸術表現の幅が広がった20世紀以降の彫刻は、それまでの写実的な表現の追求に加えて、作者の自由なイメージや彫刻の持ち味を活かした多彩な表現が展開されるようになりました。モチーフを簡略化する表現や抽象的な表現の作品を見ていきましょう。

20世紀初めに活躍した彫刻家フランソワ・ポンポンは、動物園の動物や身近な動物をよく観察した上で、シルエットの姿を滑らかで洗練された形態の彫刻作品にしました。それまでの動物彫刻といえば写実的な表現が主流であったため、ポンポンが発表した作品は大きな反響を呼びました。

表現の簡略化により取り上げるモチーフの幅も広がり、作品の印象は作者の個性によって際立つことになりました。ポンポンと同時代に活動したチャーナ・オルロフは魚をユーモラスに表現し、絵画で知られるフェルナン・レジェは鳥をモチーフにした装飾的なレリーフのような作品を制作しました。ふくよかな人物像で知られるフェルナンド・ポテロはその丸々と太らせるという個性的な表現で馬を制作し、バリー・フラナガンは漫画のキャラクターのようにコミカルな兎を表しています。デフォルメされた人や動物が人気のリサ・ラーソンの陶芸作品も合わせて紹介いたします。

具象的なモチーフが抽象的に表現されている作品も見てください。イサム・ノグチや土谷武の作品には金属の特徴を活かした表現を見ることができます。バーバラ・ヘップワースは細いスチール素材でギリシャ神話の神の姿を軽やかに表現しています。アーブラハム＝ダーフィット・クリスティアンは重量感のある表現で人物を表現し、古代彫刻のような厳かな姿を生み出しました。

石を自在に彫刻する森亮太は、抽象度の高い形態の作品を制作しました。ブルーノ・ロメダは大きな円の作品によって、周囲の景色を切り取り、作品に取り込んでいます。

具象的な表現から抽象的な表現まで、彫刻の多様な表現をお楽しみください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行) cm	備考
1	フランソワ・ポンポン	ラクダ	1906 - 1930	ブロンズ	15.6 × 23.0 × 6.0	
2	フランソワ・ポンポン	ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	
3	フランソワ・ポンポン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	
4	フランソワ・ポンポン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	
5	フランソワ・ポンポン	雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	
6	フランソワ・ポンポン	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7 × 7.9 × 8.2	
7	フランソワ・ポンポン	シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	
8	フランソワ・ポンポン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	
9	チャーナ・オルロフ	魚ノ噴水	1929	ブロンズ	40.7 × 40.5 × 13.3	
10	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951	スチール・ロッド	158.5 × 110.5 × 79.0	
11	フェルナン・レジェ	花々の中の鳥	1953	ブロンズ	43.0 × 35.0 × 5.0	
12	アーブラハム＝ダー フィット・クリスティアン	清らかな人 XI	1982	ブロンズ	166.2 × 57.8 × 28.0	
13	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	
14	イサム・ノグチ	リス	1984 - 1988	ブロンズ板	61.0 × 48.0 × 39.0	
15	リサ・ラーソン	2つの横顔	1986	陶器	19.5 × 21.5 × 4.5	作者寄贈
16	森亮太	座標	1988	黒御影石	27.5 × 27.0 × 14.0	森とみ子氏寄贈
17	土谷武	蝶 I	1993	軟鋼	147.0 × 130.0 × 160.0	
18	フェルナンド・ポテロ	馬	1995	ブロンズ	50.4 × 38.0 × 26.6	
19	ブルーノ・ロメダ	純粋な大円	2003	ブロンズ	188.0 × 191.2 × 20.0	

\* 所蔵はすべて当館。

\* リストの順番は展示順と異なる場合があります。

\* 展示作品は都合により変更となることがあります。